

北陸地域における農業分野の今後の方向性【概要版】

はじめに - 本調査の趣旨・目的 -

- ・ 農業従事者の高齢化や担い手の減少等、国内における農業の衰退に歯止めを掛けるべく、成長戦略をはじめとする政府の対策が進みつつあり、今後は収益性や生産効率の改善に向けた政策支援が本格化するものと予想される。こうした取り組みは、農業事業者にとってはもちろんのこと、農業以外の企業（異業種経営体）にとっても、新たなビジネスやイノベーションを生み出す契機となると考えられる。
- ・ そこで、本調査では北陸地域農業の今後の方向性として、主に企業（異業種経営体）と農業の連携や協働に関し提言を行うこととしたい。具体的には、まず北陸地域農業の実態についてデータ収集及びインタビュー、アンケートにより整理を行い、それらを踏まえて企業サイドの農業への対応の方向性を検討する。

第1章 北陸地域農業の概況

- ・ **現状**：北陸地域農業は米中心の生産構造であり、その平均規模は小さい（平均水田農業所得：62万円/戸）。これは他の産業ではリタイアしており年金が収入の主体である副業的農家が主力となりつつあるためである。ただし、北陸地域において徐々に増加しつつある土地持ち非農家より借地する大規模法人も散見される。
- ・ **将来**：副業的農家の高齢化や、米離れ等による米価下落が続けば、土地持ち非農家の急増が喚起され、大規模法人への委託農地の増加等、北陸地域農業における大幅な構造変化が予想される。
- ・ 構造変化への対応策としては米生産コスト削減策への取り組みと高付加価値化が重要であると言える。米生産コストの大部分を機械費（減価償却費）が占めており、機械の稼働率には大規模化以外にも生産者のネットワーク化や多品種化など、改善の余地が存在する。高付加価値化の観点からは、清酒高級化等により需要増加傾向にある酒米への期待が高まりつつある。

第2章 北陸地域農業関連事業所の実態（アンケート・インタビュー）

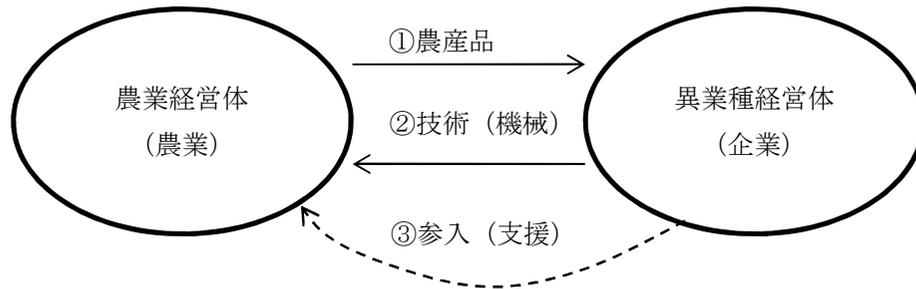
- ・ 今後北陸地域において有望と思われる農業事業の展開分野を探るべく、アンケート調査及びインタビュー調査を行った。
- ・ アンケート調査は、生産及び流通の二分野で実施し、生産分野では北陸地域の農業法人および、流通分野では直売所およびホテル・旅館を調査対象先とした。
- ・ インタビュー調査は、今後の北陸地域における担い手として代表例になり得ると考えられる対象先および、全国から、革新的な農業経営を実施していると考えられる対象先を広く抽出したうえで実施した。

| 調査対象 | 調査結果概要 |
|------------------|--|
| 米を中心とする 農業法人 | <ul style="list-style-type: none">・ 売上高1,000万円～1億円（80ha相当）のミドルクラスが減収減益と厳しい状況にある一方、同規模を超過すると経営の安定が観察された。・ 当該スケールを超過・維持には企業等からの資金支援や、大規模水田の管理に役立つ技術供与が期待される。・ 高級清酒や高級米菓等、高付加価値分野においては、企業との協働・連携により、小規模でも付加価値増・ブランド化が期待できる。 |
| 野菜を中心とする 農業法人 | <ul style="list-style-type: none">・ 食品加工業が上流に展開するパターンを典型として、野菜生産には企業参入が多く見られた。・ 農業事業者との連携強化や、上流展開による地域循環を実現することによって、地域ブランド化や観光業への波及効果も期待できる。・ 外食分野における優位性が認められつつある植物工場の経営状況には改善がみられ、今後の技術進歩に際する企業の寄与が期待できる。 |
| 直売所 | <ul style="list-style-type: none">・ 売上高1億円を超える直売所のほとんどはJAが運営するものであり、直売所はJAによる地域物流システムとなりつつある。・ ローカルサプライチェーンとしての役割は、今後重要性を増すと考えられ、対策としてはネットワーク化が望まれよう。 |
| 旅館・ホテル | <ul style="list-style-type: none">・ 回答先の9割が地元農産物を意識して使用しており、今後、ホテル旅館は地元農産物を通じた北陸のイメージアップやブランド化の先兵となる。 |

第3章 北陸地域における農業分野の今後の方向性

- ・ 北陸地域が農業と企業の連携・協働先先進地となるために、本調査より得られた結果をもとに、企業サイドの目線から、農業と企業の関係整理を行った。
- ・ 農業経営体（農業）と異業種経営体（企業）の関係は、①企業が購買者であるケース②企業が販売者であるケース③企業が農業に参入するケースの3通りに整理できる。

【農業と企業の関係】



- ・ 上図①～③の関わり方より派生するビジネスモデルとしては、地域内の農業と食品製造業の関係を密にし、企業が地域経済循環のエンジンとしての役割を果たすことにより農業分野へのプラスのフィードバックが期待できる「地域循環」、企業が農業分野において、ICTや植物工場、施設エネルギー効率の改善等の技術革新をもたらす「イノベーション」、農業生産分野に直接参入するケースや資金支援を行う「参入・支援」の3パターンが考えられる。

| ビジネスモデル | 展望 |
|---------|---|
| 地域循環 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の食文化と産業効率には相関関係が観察される。 ・ <u>全国的にみて北陸が優位である食品産業には、将来に亘った地域農産品の利用率向上やブランド化に寄与し得る可能性が高く、農業と企業との関係を強化する素地があるとみられる。</u> |
| イノベーション | <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の優れた技術を農業に導入するものであり、農業へのIT導入、植物工場、新型精米工場等の技術寄与に期待が高まる。 |
| 参入・支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模化の途上にある農業法人支援に一定の投資効果が期待できる。 |